Atsuko Tanaka
——田中敦子——

STAINLESS STEEL BAR & WIRE

NABEKURA

鍋倉金属工業株式会社 和田山工場

〒669-5252 兵庫県朝来郡和田山町筒江字中山165番地7

TEL 0796（74）2011（代） FAX 0796（74）0150

OSAKA・TOKYO

メッセージ

僕が見た夢の話

―― 漫画家　コンタロウ（高階光幸）

プロフィール

たかしな みつゆき（養父町出身）

昭和26年12月11日生まれ。養父町広谷の薬局の次男として誕生。八鹿高校卒業後、何度かの投稿を経て昭和50年夏、大学在学中に少年ジャンプ赤塚賞受賞。その秋より「1・2のアッホ!!」でギャグ漫画の連載を始める。以後、「怪盗ルーズ」「いっしょけんめいハジメくん」「ぼくらの時代」「プロレス短編シリーズ」等、主に集英社で作品を発表。最近作は漫画ゴラク短期連載「魔球」、漫画笑ルーム「下町純情ランチ」、漫画釣王「サラリーマン釣道講座」、新年より宝島社の新雑誌に連載中。

但馬を離れて、もう27年になります。

思えば、中学生の頃から僕は漫画のことばかり考え、東京の方向を向いていました。でも、最近は年のせいもあるのか夢の中にも但馬の風景が現れます。懐かしい但馬の風景の中でも一つ選ぶとすれば、それは円山川の土手の長い道です。その道をエッチラオッチラ、一人自転車をこいで豊岡の街に向かう中学生の自分が見えてきます。当時、高度成長期にさしかかり漫画の世界も、スポーツ根性ドラマやH漫画が登場し、人気を集め漫画ブームと言われ始めていました。しかし、中学生の僕はそういった漫画に素直に熱中する読者ではありませんでした。自分が幼い頃読んでいた手塚治虫の作品の方がずっと面白く内容的にも優れていたような気がして、手塚治虫の古い単行本を探しに養父町広谷から自転車で片道二時間をかけて、豊岡の貸本屋へ向かっていたのです。貸本屋には本屋には無い古い本があります。その中からめぼしい手塚作品を選んで借りてくるのではなく、買い取ることが目的でした。こんな中学生は見たことがなかったのでしょう。貸本屋のおばさんが不思議そうな顔で本を売ってくれたのを覚えています。広谷や八鹿の貸本屋はすでに回り、それでも飽きたらずの遠征でした。

その頃買った手塚治虫の単行本の一冊は今も手もとにあります。『フィルムは生きている』というボロボロになったこの単行本をめくると、古いアルバムの自分の写真を見ているような気がしてきます。もし、時間を飛び越えてあの頃の自分に出会えたら、僕は何と言うでしょうか。何くわぬ顔で「そんなに漫画が好きなら漫画家になったら？」とでも言ってみましょうか。中学生の僕はきっとこう答えると思います。「おじさん漫画家なんてそんな簡単になれるもんと違うで。」

あれから、三十数年経った現在、東京で漫画を描いているのは夢のような気がします。そのうち、フッと夢からさめたら、自分はまだ円山川の長い土手道を手塚治虫の古本を求め、一人でエッチラオッチラ自転車をこいでいるのかもしれません。